

課 題 名	直さし造林
開 発 期 間	開始年度 45年度 調査年度 46年度 終了(見込)年度 46年度
開発担当者所属氏名	長崎署 経営課長 水俣署 経営課長 岩井良一 山下隆男 菊池署 〃 都城署 〃 青柳朋夫 中村琢磨
経 費	
開 発 目 的	
造林作業工程の直接化による省力と成長量の増大、および投資額の節減をはかるため、直さし造林技術を確立する。	
開 発 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 処理別、さし付時期別、各試験区の活着率成長状況調査 2. 程、経費についての調査 	
営林局における開発結果の評価および普及計画の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環状剥皮処理の平均活着率が対照区の平均活業的に導入するには、まだ問題がある。 2. I B A 処理、期待するほどの顕著な差は認め

技術開発報告書

実 施 経 過
環状剥皮処理と I B A 処理それぞれの活着率、成長量の調査と所要工程経費比較を行なった。
開 発 結 果
別紙 18-1 参照
<p>着率を 10% 内外上廻わっているが、労働経費等を総合的に勘案した場合寧ろ、今後さらに究明する必要がある。</p>

直 ぎ し 造 林

開 発 結 果

(毎 4,000 本)

1. 環状剥皮処理

- (1) 活着率 カルスの形成は剥皮後30日で不完全であるが45日程度ではとんど完全になるようである。

剥皮後の経過日数ごとのさし付では30～45日の間でよい結果を得た。

月別では7月中旬～8月中旬にかけて剥皮し、30～45日経過後さしつけたものが良好な結果を示した。

- (2) 成長量 根元径、樹高ともに顕著な差はあらわれていないが、活着率のよかつた7～8月剥皮処理のものがやはりよい成長を示している。

2. IBA処理

- (1) 活着率 IBA粉(1%)、IBA液(5.000PPM)対照区間に大差はなかつた。また、時期別にみた場合10～11月の秋期よりも2～3月の春期が良好であつた。

- (2) 成長量 成長期間が短かく、ほとんど差は認められない。

3. 所要功程経費比較

表のとおりIBA(粉)処理が、普通さし木造林に比べ省力面、経費面ともに有利であるが春期のIBA処理と対照区で活着率に大差ないとすれば、結論づけるには、まだ資料不足であり早計である。

	人 工 数	金 額	比 率	
環 状 剥 皮	36.6人	円	149%	149%
IBA(粉)	24.9		101	101
IBA(液)	24.9		101	157
対 照	24.6		100	100
普通さし木苗	38.4		156	154